

水都大阪の次期推進体制と取り組みの方向性について

水都大阪の将来像

都心を流れる水の回廊を船が行き交い、内外の人々が水辺に集い憩う世界に類をみない水都の修景

- 「水」と「光」を活用した持続性あるビジネスモデルによる観光客・投資の増加
- 大阪城、USJなどと並び、「水の回廊」が世界第一級の観光拠点に

2020年までに

より多くのプレイヤーの水都大阪への参画によりこれまでの取り組みを発展・進化させながら

- ・ 舟運活性化をはじめとする観光メニューの充実と多彩な魅力空間の形成で水の回廊でこれまで以上にぎわいを創出
- ・ 「水都大阪」ブランドを確立し国際的な観光プレゼンスを向上

これまでの取り組み

成果

- ・ ライトアップ・遊歩道等の基盤整備の充実
- ・ 道頓堀クルーズなど一部観光商品の定番化
- ・ 民との連携などにより、水辺拠点のにぎわい創出
- ・ 中之島公園、中之島GATEの日常的なにぎわいづくり

課題

- ・ 基盤整備を活かす民間ビジネス誘致
- ・ 水都ブランドの確立とプロモーションの強化

観光・都市魅力を取り巻く状況の変化

◆インバウンドの急増

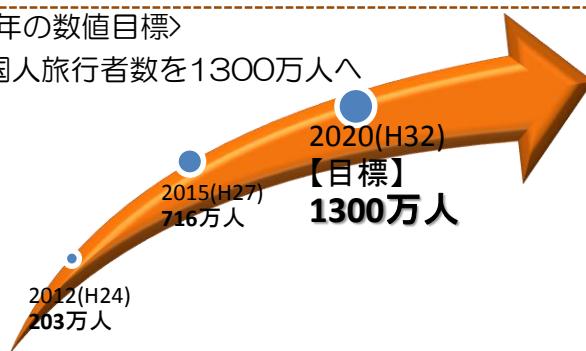
H24 203万人 ▶ H27 716万人
(来阪外国人旅行者数は3年で3倍以上の増加)

◆今後、三大スポーツイベントの開催などにより国内外からのさらなる注目の高まり

◆大阪都市魅力創造戦略2020(案)において『世界に存在感を示す大阪』『内外から人、モノ、投資を呼び込む強い大阪』の実現を戦略目標に設定

<2020年の数値目標>

来阪外国人旅行者数を1300万人へ



「水と光の首都大阪」の実現に向けた取り組みの発展・進化

2020年に向けて

増加するインバウンド等を見据え、水都大阪が観光・都市魅力の主要コンテンツとして成長するため、「体制の強化」、「取り組みの加速」が急務



水辺拠点のにぎわいや、ライトアップなどの魅力資源を舟運でつなぎ、世界から注目される観光拠点に

(1) 推進体制の強化

☆ 公民の力を結集する新たな推進体制の構築

- ・ 多くのプレイヤーの水都大阪への参画を促進するネットワーク・コーディネート型組織の立ち上げ

<ポイント>

- ◇ これまでの成果を水都全体に応用・波及
- ◇ 総合力を発揮できるネットワーク・コーディネート型組織へ
- ◇ 公民で目標・ビジョン等を共有し実践

(2) 取り組みの加速

☆ 舟運活性化をはじめ

水辺・水上を楽しめる観光メニューの充実

拠点をつなぐ舟運の活性化や、多彩な魅力空間の形成などにより、船のある風景とにぎわいを創出

☆ インバウンドを惹きつける国際的な観光プレゼンスの向上

水と光、歴史と文化、花と緑の相乗効果による「水都大阪」のブランド確立、魅力発信による集客力強化

推進体制(案)

特徴

1 公民共通のプラットフォーム

- ・ 公民一体となりプランニングからアクションまでを実践する「(仮称)水都大阪コンソーシアム」を組成

2 大阪観光局や舟運団体が参画

- ・ インバウンド対応を含むプロモーションや舟運の強化

【現行体制】

推進会議

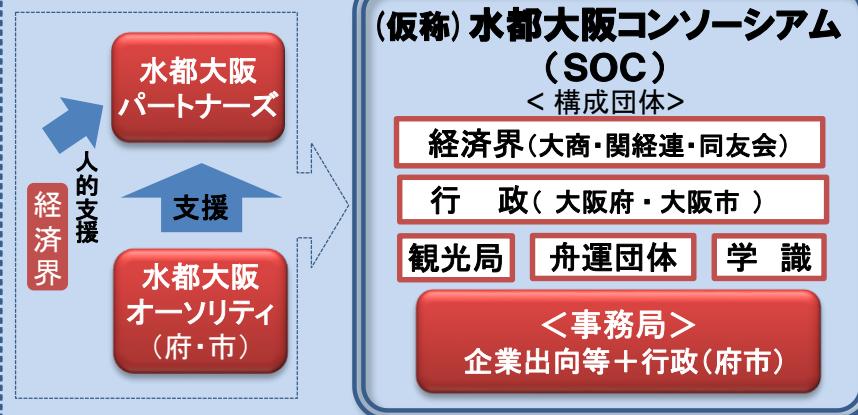
基本方針の提示

【次期体制】

推進会議

基本方針の提示

組織



(仮称)水都大阪コンソーシアム (SOC)

<構成団体>

経済界(大商・関経連・同友会)

行政(大阪府・大阪市)

観光局 舟運団体 学識

<事務局>

企業出向等 + 行政(府市)

SOC

～公民共通のプラットフォーム～

多様な水辺関係者とのネットワーク・コーディネート機能

役割

民間

- 水辺ビジネスの提案
- 水辺を意識した開発

- 企画立案
- 魅力創出の実践
- 規制緩和に向けた調整

行政

- 基盤整備